

## 平成 30 年度 第 8 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

### (JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

[問い 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 5 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(背景 共有化 自己探索 ものの見方 価値観) (15 点)

事例 I では、Cct はこれまでの課長とのやり取りの背景や CL の内的な感情に焦点を当てることなく「会社を変える」「異動願望」といった Cct の一方的な価値観やもの見方で応答を重ねているため、相談者は抵抗を示し、問題解決へ向かうことなく展開には至らない。一方、事例 II では、これまでのやり取りの背景に焦点を当てることで CL の内的な感情を引き出し、さらにキーワードである「認めてもらう」という感情の共有化により CL の自己探索を促し、「虚しい」という新たな感情に気づかせることで問題解決に向かう展開となっている。(手書き 6 行)

[問い 2] 事例 I の Cct5、Cct8 と事例 II の Cct5 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I Cct5 相応しくない

「どう対応しているのか分からないので相談に来た」という相談者の主訴が述べられているにもかかわらず、何か具体的に考えていることがあるかと尋ねることで、相談者を困惑させる応答である。

事例 I Cct8 相応しくない

CL2 で、課長の言葉にショックを受けたと説明しているにもかかわらず、Cct8 は課長の言葉を支持した応答でありクライアント中心でないため、CL9 で抵抗を示している。

事例 II Cct5 相応しい

CL5 の中のキーワードになる感情の言葉「認めてもらうこと」に焦点を当てることで、相談者の内省を促し、どのように対応すればよいかという主訴に向け展開する応答になっている。

[問い 3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

相談者は、課長に相談者自身の気持ちや考えを伝えたり相談したりせずコミュニケーションが不足しているため、両者の考え方に齟齬がみられる。そのため、「言われた通り従うことが認められること」との思い込みがあり、モチベーションが下がり、前へ進めずにいる。

[問い 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

これまで一生懸命仕事をこなしてきた CL を労いつつ、「人に認めてもらうことにこだわり、相手の気持ちや考えに振り回されている自分」に焦点を当て、今まで押し殺してきた自分自身の考えや思いを率直に課長に伝え、部署の方針のすり合わせについても課長に相談してみることを提案する。さらに、18年間働いてきた職務について棚卸しをすることで、CL 自身の強み、自分らしさに気づけるよう促し、また CL が前向きに働いていけるよう支援していく。

以上